

同志社大学国文学会彙報

昭和五十七年度国文学会活動状況

△講演会▽（一月二十九日 学生会館）

・日本のかなの美

日比野光鳳（本学講師）

——文化学会主催・国文学会後援——

△教育問題研究会▽（八月一日 京都教育文化センター）

・「オッベルと象」の授業

松井 秀幸（華頂学園高等学校教諭）

・現場からの報告

——中学校の生活について 地域社会を視点に——

森岡 友宏（修学院中学教諭）

△総会・研究発表会▽（十一月二十三日 光塩館会議室）

研究報告

・椎名麟三「美しい女」論

上田 正（本学卒業生）

・説経「さんせう太夫」試論

——未発の語り——

生井 武世（本学講師 同志社香里中高等学校教諭）

昭和五十七年度卒業生卒業論文題目

『英雄伝承』構造論

——祝福型・横死型構造のモデル—— 岩名 紀彦

英雄伝承の伝承構造

——元型としてのトライアッド—— 赤間 聡

『日本霊異記』小論

——人間の暗部からの飛翔—— 安川 禎亮

『伊勢物語』二十三段における伝承史的方法

——「昔、男」のになうもの—— 清水 千佳子

夕霧死姿見の重層構造

『源氏物語』の世界 伊藤 千賀子

——花の名を負う女性たち—— 渡慶 次裕子

『源氏物語』の「鬼」

——基層伝承と展開—— 轟 幸誠

落窪物語試論

菅原孝標の娘 久下 豊

『延慶本平家物語』頼朝論考 藤澤 裕人

謡曲の世界と鬼

北村庸江

——卷十九卷末三首を中心にして——

安部 裕一郎

御伽草子の成立

高田 惠美子

——卷十九卷末三首を中心にして——

駒井 三枝子

——「小男の草子」を中心にして——

高田 惠美子

大伴旅人の讃酒歌

梶 絵理子

——「言挙」と「言霊」

岡本 浩

——その連作的方法——

梶 絵理子

——「言挙せぬ国」という表現をめぐる——

岡本 浩

高橋虫麻呂の伝説歌成立について

久保田 明子

——「言挙せぬ国」という表現をめぐる——

岡本 浩

大伴坂上郎女論

永易 嘉子

——「言挙せぬ国」という表現をめぐる——

岡本 浩

「沙本昆売物語」論

樋田 裕子

蛇簪入り「宇環型神話」の系譜

丸山 春美

源氏物語における住吉神信仰

早川 和佐

——宇環の系——

丸山 春美

——皇統譜の神と在地の神と——

早川 和佐

上代文学における「妻争い」の系譜

秋道 奈保子

源氏物語における紫上の造型

早川 和佐

——悲劇的恋愛文学の成立——

秋道 奈保子

——「子なし」の意味——

蛇川 弥寿子

柿本人麻呂における神話意識

井筒 真奈美

源氏物語にみる女性の嫉妬

蛇川 弥寿子

額田王論

浅井 和美

——紫上を中心として——

森田 暁子

——専門歌人誕生への道——

浅井 和美

——紫上を中心として——

森田 暁子

額田王論

浅井 和美

源氏物語の基本構造

村井 宏行

——和歌の自立——

永本 美鈴

「花」「紅葉」考

桑山 郁美

貧窮問答歌の成立

川口 智代

平安朝物語における「光」と「闇」

中村 麻美

山上憶良の日本挽歌

三野 充恵

——その象徴的対立について——

中村 麻美

山上憶良 嘉摩郡三部作の論

森田 佳子

『和泉式部日記』所載歌の表現位置について

中村 麻美

家持の春愁

森田 佳子

——和泉式部の家集所載歌と——

中村 麻美

比較して——

「清内路の昔話」を追って

清水 智子
西山 ゆかり

徒然草の「をかしみ」について

西田 安夫

『義経物語』の構想

——義経造型を中心として——

太田 康子

『義経記』における義経造型の方法

梅田 敬子

「仁勢物語」のレトリック（暗示引用）

比嘉 稔

好色五人女論

——「姿姫路清十郎物語」

「中段に見る暦屋物語」より——

岸本 礼子

『好色五人女』巻一

「姿姫路清十郎物語」をめぐる

田辺 律子

『好色五人女』巻一における

構成の不備・矛盾について

吉松 千代子

『好色五人女』考

——巻三「中段に見る暦屋物語」を中心に——

田嶋 純子

『好色五人女』小考

——巻四恋草からげし八百屋物語——

高橋 信子

『日本永代蔵』における質的断層と初稿の問題

「日本永代蔵」について

淵田 洋子

『日本永代蔵』論 その矛盾と理想

本田 寿志

『日本永代蔵』

——その二つの矛盾をめぐる——

亀井 ミサエ

『長者教』と『日本永代蔵』

『世間胸算用』

松浦 康恵

——その方法と世界——

「世間胸算用」論

小倉 寧子

『武道伝来記』論

「おくの細道」の虚構性について

香川 芳恵

近松の描いた女性たち

近松世話浄瑠璃の方向

上野 薫

近松世話浄瑠璃における敵役の構造

『曾根崎心中』の方法と成立について

角谷 郷子

『曾根崎心中』

——その方法と画期性について——

光野 公敏

『曾根崎心中』の二つの道行について

『曾根崎心中』「観音めぐり」の意義

足立 智子

『曾根崎心中』観音廻り考

——立体的観点から——

鳥井 徹

近松の描いた遊女

——『曾根崎心中』と

『心中天の網島』をめぐる——徳永恵子

『心中重井筒』

近松世話浄瑠璃心中物の展開期が存在するか

戸口 美佐緒

『堀川波鼓』

——実説と作品をめぐる——

鈴木 智香子

『女殺油地獄』について

孫山 裕

『心中天の網島』の改作

——その実態と改作に至る理由について——

赤島 敬子

『心中天の網島』にみる「義理」

大谷 左季子

『心中天の網島』について

——近松の描いた「義理」を中心に——

八木 茂子

『女のドラマ』という視点からの

『心中天の網島』における考察

中村 稔

『百合若大臣野守鏡』考

雨月物語『夢応の鯉魚』の研究

雨月の女たち

鈴木正三論

鏡花の怪異小説

——「注文帳」「白鷺」

「眉かくしの霊」を中心にして——

妻 鹿達也

鏡花「照葉狂言」考

島田 邦男

森鷗外私論

——「舞姫」と「半日」の関係——

和田 信一

夏目漱石の自己本位説

横田 泰男

『行人』考

岩部 典子

国木田独歩の運命観

佐藤 広之

『家』論

——藤村を中心に——

松井 利佳

石川啄木における思想

——生活者を視点として——

奥山 了

啄木の人生と歌

喜多 一晃

石川啄木の国家観

——ナショナルリズムの変貌——
有島武郎の社会観

——『親子』を中心として——

『或る女』論

芥川龍之介とキリスト教

谷崎潤一郎の美意識

——美的規範の形象化をめぐる——

谷崎潤一郎 文体論

宮沢賢治における

「ほんたうの幸福」とは

中原中也と黒田三郎

——『日本の詩に対する

ひとつの疑問』を中心に——

中原中也の歌

——その音楽性をめぐって——

小林多喜二論

『人間失格』論

梅崎春生「此島敗戦記」論

『雪国』における美的手法の解明

中野重治と芸術大衆化論争

水野 光

森岡 哲哉

平居 千明

服部 陽子

谷村 信治

中上 順子

榊谷 佳彦

寺井 義人

塩貝 由佳

南 美穂子

楠瀬 知子

森 勝美

御前 悟

平田 久美子

三島由紀夫の自決について

山本周五郎論

「静物」にみる庄野潤三

有吉佐和子「紀ノ川」考

井上靖の『星と祭』作品論

『沈黙』に於ける遠藤周作のイエス像

——踏絵の基督に見るキリスト——

吉行淳之介論

——『原色の街』を視座として——

『万延元年のフットボール』論

上代第一人称代名詞小考

——ア系統語・ワ系統語の相違——

古代形容詞の意味の考察

——多義性の分析——

中世初期の漢語形容語

——『色葉字類抄』『今昔物語集』

『明月記』から——

『類聚名義抄』における

五音節複合名詞アクセントについて

佐野 拓

福井 秀子

植野 晋治

鈴木 靖子

松尾 みゆき

仲村 睦美

佐藤 愛

小畑 雅史

高橋 一仁

久原 敬子

高橋 一仁

中世和語における連濁の規則性について

戸田綾子

国語辞典における新語と流行語

向真裕子

手話辞典をめぐって

—— 語彙論的考察を中心に ——

高橋春海

アスペクトを表す「クル」「イク」

に関する一考察

大島中正